

1951年創刊

11月20日号

毎週木曜日発行

月間購読料1,620円
(1,500円+税・送料込)

広島経済レポート

広島経済レポート

2014年11月20日号 No.2941



ど、机に向かっ
て息の詰まる細
かい作業を担
当。息抜きのため、業務中でも一緒にカープ談



カープ応援談

広島建築住宅センター

栗栖 繁社長

私が学生の頃は、今ほど遊びのない時代。カープは負け続けていましたが、いつもラジオ中継を聞いていました。まだ若かったため、将来の自分の人生に抱く漠然とした不安と、勝てずに低迷するチーム状況を重ねていたように思います。だから、1975年の初優勝が一番印象深い。もともと優勝するという発想すらありませんでした。貧乏球団としてスタートしたカープの優勝に、無限の可能性を感じたものです。当社の若手社員にも猛烈なファンがいます。彼らは住宅の建築確認審査など、机に向かっ

議で盛り上がります。試合結果に一喜一憂していますが、若者にとって熱くなれるものがあるのは大切なこと。だから、カープが広島にあることは、地域にとって大変な財産です。巨人には地域性がなく、愛着もない。強くても面白くない。広島で汗水垂らして頑張っているのを知っているからこそ、自分のことのように選手の活躍を喜ぶことができます。

現在のチームは堂林や丸など、若い選手が粒ぞろいで良い。選手を育て上げるカープらしさもある。今季は残念ながら、クライマックスシリーズで大切な試合を落としてしまいましたね。来季は緒方新監督の下、ぜひ優勝してほしい。しかし、子どもの頃から応援してきたカープは私にとって、期待しては負け、期待しては負けの繰り返しに歴史。あまり期待すると、負けた時に精神上良くないので、自然と自己制御するようになりました。半々ぐらいの気持ちで優勝を願っています。